

# 大久野通信 vol.17

こと作りの予感



極寒の活動拠点は、ラテ色の美しい里山の風情を醸し出しています。「RBSゴールド」の性能試験と銘打って農業実証を始め3年目に突入しましたが、この絶景の活動拠点は野生動物たちの楽園でもありました。動物の被害で農業を諦めた先輩たちも多かったです。大久野倶楽部も、鹿やイノシシの被害を受け悔しい思いをしました。

太陽のありがたみを痛切に感じる寒い季節ですが、既に畑の整備が始まり汗を掻いています。今年は、同じ悔しい思いをした [Syncs.Lab](#) さんの実証畑と一体で盤石な柵で囲むことにしました。野生動物の被害を受けない（と思いたい）広大な実証フィールドを共同運営し、これまで以上に連携を深めて「こと作り」に繋げて行こうとしています。

## INDEX

- ・野生動物の生態
- ・お願い！入らないで！
- ・今後の展望

## 野生動物の生態

本来は人間の気配で姿を隠すのが野生動物ですが、人懐っこいカモシカの子どもがひょっこり登場します。「かもちい」と名付け、ちょっとしたアイドルです。ただ、鹿は2m程度の柵を軽々と飛び越えてしまいます。大根の若芽が好物の様です。イノシシは金属柵を捲り上げ侵入します。収穫時期のイモ類が大好き。収穫まで数か月、灼熱の夏にも耐え雑草と戦いながら育て上げても、彼らに食べられてしまっは育成評価ができません。この地での農業を諦めた方々の気持ちも十分理解できます。



カモシカの「かもちい」



動物対策のフェンス



フェンスはめくり上げられ



すべて食べられました・・・

## お願い！入らないで！

畑の外周には深さ30cmほどの堀を築き、畑に面する側に金属柵を固定、イノシシが捲り上げるポイントを確実に潰し、金属柵の外周に電気柵を巡らしました。動物は焦げた臭いを嫌うらしいので、雑草対策も兼ねて堀に竹炭を敷きました。フェンスの上部には、鹿が嫌うロープを複数張り巡らしました。この地で農業をするには、まず野生動物たちに侵入を諦めさせる対策が必須なのだと腹を決めました。果たして、我々の願いは彼らに届くのでしょうか・・・。



イノシシ対策のお堀



鹿対策のロープ

## 今後の展望

一般には農閑期と呼ばれる真冬は、真夏に向けた準備の時期でもあります。現地には水道が無く、水の確保が悩みでした。今年は、雨水をタンクに溜め無人散水を試みます。AIと呼ぶにはおこがましいですが、その領域にも踏み出したいと考えています。

天然衣料素材の循環を目指す Syncs.Lab さんと、自然浄化法由来の肥料性能評価を行う我々と、目的は異なりますが、縁あって同じ柵内で活動を行うことになりました。更に、日の出三六会の会長も、この畑で山の廃材活用の実証をしようとされています。それぞれ背景や目的の異なるメンバーが集うこの活動拠点から、何か新しい「こと」が始まるのではないかと、そんな予感がしている大久野倶楽部です。